

寄贈

銀有線七宝作品 題名 「眠りへの誘い・・・Ⅲ」 48×1.5
氏名 平田 英夫

作品について

立体・装身具等日本伝統工芸の踏襲ではなく、用と美の工芸作品から離れて、現代アートとして平面作品による七宝表現の可能性を追求している。

作品は自己の内面の想「流れ」を元に、実在の物の形にとらわれない非日常的な夢想空間の世界を構成したものである。森羅万象流れるものは美しく強い。構想の過程を表現したものである。

略歴 (竜一八回卒)

1937 牛久市生まれ

1960 茨城大学教育学部美術科卒業

1960～1998 公立小・中学校・県立特殊教育諸学校に勤務

1980～ 公益社団法人 日本七宝作家協会に所属し、理事・常務理事・評議員等歴任

1988 日展入選

主な受賞歴

- ・東京都知事賞・産経新聞社賞・日本七宝作家協会会長賞・国際七宝日本展会長賞
- ・瀧川惣助賞
- ・文部科学大臣賞・茨城県美術展覧会<優賞・板谷波山賞>
- ・造幣局理事長賞

主な個展

- ・画廊橋・茨城県つくば美術館・ギャラリーサザ新春企画展・ホテル安比グランド企画展
- ・(財)常陽藝文センター企画展(196回 郷土作家シリーズ展)・かつらぎ画廊新春企画展
- ・第26回 2022 石岡市企画展

現在 公益財団法人 日本七宝作家協会評議員
茨城県美術展覧会会員
住所 牛久市牛久町 2395-6
TEL・FAX 029-872-6773

- ※ 七宝焼きは、ガラス質の釉薬(えのぐ)を800℃前後の高温で銅板に溶着させた金属工芸品です。
作品そのものは、高温焼成したものであるため永遠に変色はしません。銀線は一般の銀製品同様に経年により少しずつ黒ずんできますが銀用ワックスできれいに磨けます。マット紙は外気に触れているので経年により汚れたりカビがはいったりする場合があります。画材店でマット交換できます。

選評

審査員名 押元 一敏 (東京藝術大学准教授)

この度、初めて審査に参加させていただきました。七宝はとても繊細さを要する技術ですが、その一方で多くが大胆さを内に秘めており、個性になっていたと思います。私は、七宝に関する専門知識は疎いのですが、自身の専門である装飾、デザインや絵画性の観点から拝見して、強く興味を受けたのが、平田さんの作品「眠りへの誘い・・・Ⅲ」でした。作者が夢想のフィルムのようなコマ送り画像と示すように連続性を持つ16枚の画面で構成された平面作品です。曲線の揺らぎと円のリズムが心地よく、分割してもそれぞれのシーンとして観ることが可能でもあり、全体としてのバランスもよくまとまっています。作品の世界観に惹かれたことはもちろん、全体と部分、繊細さと大胆さに通ずる静と動といった対犠牲を備えていることが高く評価できます。



眠りへの誘いⅢ
平田 英夫
2022

造幣局理事長賞

2022.10.16 09:20

第55回

日本七宝作家協会国際展(公募)2022<東京都美術館>

造幣局理事長賞 The Mint President Award

「眠りへの誘い・・・Ⅲ」 48×81.5